

審判の手引き

1、主審の役割

※オーバールール・ボールマークの調査

いずれも必要だと判断したとき行ってよいが、自信を持ってジャッジすること。
ただし、ボールマークの調査を行うことができるのはクレークコートのみ。

※他のコートからボールが入ってきた場合の対処

他のコートからボールが侵入してきた場合は即座にレットをコールすること。
選手はレットをコールすることができないので注意すること。

※プレー中に選手が物を落としたとき

理由にかかわらず、身につけている物をコートに落とした場合、ペナルティの対象となる。1回目のポイントは警告(レット)になり、2回目以降は失点となる。

※時間の計測

主審は必ず時計を持参すること。

練習 5 分

ポイント間 20 秒

(時間をオーバーしても特に問題がないと判断したときはとらなくてよい。)

エンド交代 60 秒

(審判が「タイム」とコールし、30 秒以内にプレーを始める。)

(セット間 90 秒 審判が「タイム」とコールし、30 秒以内にプレーを始める。)

※トイレットブ레이크

女子 3 セットマッチの場合 1 試合に 2 回トイレットブ레이크を取ることができる。

トイレットブ레이크はセットブ레이크時に取るのが望ましい。

着替えはセットブ레이크時のみとする。

ただし、ダブルスにおいては 1 組で 2 回であり 1 人 2 回ではない。

したがって、ペアが同時に要求したときは、2 人でも 1 回と数えられる。

また、ペアの 1 人が単独で 2 回トイレットブ레이크をとってしまったときはそのパートナーには権利はなくなる。

男子 3 セットマッチの場合 1 試合に 1 回トイレットブ레이크を取ることができる。

ダブルスにおいては、1 組で 2 回取ることができる。

※この場合のみ選手はコートを離れることができるが、学連の付き添いが必要。

※メディカルタイムアウト

トレーナーまたはドクターの判断に基づいて、レフェリーまたは主審が許可すれば、次のエンド交代時、セットブレイクの間にメディカルタイムアウト（MTO）を取ってケガや病気の手当ができる。

緊急を要する場合は、直ちに MTO が取れる。

MTO はトレーナーまたはドクターが実際に手当を開始した時に始まる。

MTO は 3 分を超えてはならない。

1 部位の症状につき 1 回のメディカルタイムアウトが取れる。

熱中症に関する症状は、1 試合につき 1 回だけ MTO が取れる。

筋ケイレンの場合、選手はエンド交代時またはセットブレイクの時間内に限り処置を受けることができる。筋ケイレンの処置で MTO は与えられない。

※メディカルトリートメント

選手は、エンド交代時（90 秒）、セットブレイクの時間内（120 秒）に手当を受けたり、ドクターから医薬品を受け取ったりできる。

手当は、2 回までなら MTO の前でも後でもとることができ、その 2 回は連続するエンド交代時でなくても良い。

手当のできない症状の場合には、メディカルトリートメントは適用されない。

2. ペナルティーについて

おもにスポーツマンシップに反する選手へのペナルティー。

（コードバイオレーション。略 C. V. ） 有効期間 1 日

1 回目 警告 2 回目 失点 3 回目以降 1 ゲーム失う

試合中、身につけている物をコートに落としたとき 有効期間 1 試合

1 回目 警告 2 回目以降 失点

3. セットブレイク・ルールについて

セット終了後の 120 秒間の休憩をセットブレイクと呼ぶ。

セットが終了したら、そのスコアに関係なく選手はベンチに引き上げて休憩する。

90 秒経過したとき、アンパイアは「タイム」とアナウンスする。

このアナウンスによりプレーヤーは、前のセットのスコアが偶数ゲーム（6－4）なら元のエンドに戻り、奇数ゲーム（6－3）ならエンドを交代して、30 秒以内に新しいセットを開始する。

しかし、各セットの第 1 ゲーム終了後は、プレーは、連続的でなければならないという規則により、休憩なしでエンドを交代しなければならない。

4. アンパイアが1人だけの試合規則 (Solo Chair-Umpire—S.C.U.)

SCUで、ラインアンパイアのつかない試合における手順は、次のとおりとする。

プレーヤーは、ネットの自分側のラインコールについて責任を持たなければならない。これは、ボールのアウト/インの判定について、プレーヤーがセルフ・ジャッジするということを意味している。

プレーヤーが確かなコールをできないボールは、グッドとみなされなければならない。また、プレーヤーがコールのとき、ボールがインだったかアウトだったかを決めるのに SCU からの「助け」を求めることはできない。

プレーヤーの判定が明らかに間違いであると SCU が判断したときは、SCU はその判定を変更できる。

- ※(1) 「アウト」または「フォールト」のコールを SCU にオーバールールされたとき、ボールを返球したかどうかに関係なく、そのプレーヤーは失点する。
- ※(2) 明らかにアウトのボールをプレーしたとき、SCU は、「アウト(またはフォールト)」をコールする。
- ※(3) 際どい判定で、オーバールールするには不適当と思われるときは、プレーヤーの判定を支持する。ラインコールは、直ちに行わなければならない。「アウト」がコールされるまでは、ボールはアウトとはみなされない。有効なアウトコールは、瞬間的になされるべきである。

その他は、JTA テニスルールブックに準ずる。